

平成23年度 第3回男女共同参画審議会概要

- 1 日 時 平成24年1月26日（木）
午後1時15分～3時15分
- 2 場 所 庁議室
- 3 出席者 西山会長 大村副会長 野崎委員 平島委員
染谷委員 横山委員 柏木委員 金井委員
秋谷委員 管原委員 山田委員
欠席者 近藤委員 小倉委員
事務局 染谷総合政策部長
水代企画政策課長
松井男女共同参画室長
記録 田上
傍聴者 なし
- 4 議 題
 - 1 第2回審議会での問題点の回答
 - (1) ファミリーサポートセンターの活動状況及び地区別活動状況について
 - (2) その他
 - 2 第2次男女共同参画プラン推進のための審議会の意見について
 - 3 建議に盛り込む内容について
 - 4 その他
 - (1) 平成23年度男女共同参画事務年間実績及び予定
 - (2) 職員用DV被害者窓口対応マニュアルの作成について
(報告)
- 5 内 容
(水代課長)

本日はお忙しい中、流山市男女共同参画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。只今から、第3回男女共同参画審議会を始めます。開会に先立ちまして、染谷総合政策部長からご挨拶申し上げます。

(染谷部長)

こんにちは。今日はお忙しいところありがとうございます。先日、千葉県内27市の男女共同参画に関する担当者の皆様が本市に集まりまして会議を行いました。その席上、私からの挨拶でも申し上げましたが、平成23年度におきまして、当市で実施いたしました男女共同参画に関する施策をいくつかご紹介いたしました。その一つは、皆様ご存知のように、一般競争入札の審査基準の中に女性の社員がいるのであれば100点満点のうち2点を差し上げましょうというもの。それから、このような審議会に女性の方がもっと参画していただけるようにお子さんの一時保育をしましょうという制度も正式にスタートしました。また、初めて流山市の女性農業委員が誕生したということ。平成23年度は、流山市の男女共同参画の政策にとってはある程度画期的な1年であったと思っております。この姿勢を24年度においても各市の皆さんに言えるように、決して受け身ではなく攻めの姿勢で行っていきたいと思います。皆さんどうぞご協力お願いいたします。

(水代次長)

続きまして、西山会長よりご挨拶を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

(西山会長)

皆様、お忙しいところありがとうございます。それでは年度末の審議会を始めさせていただきます。皆様よろしくお願いいたします。

(水代次長)

では、以降の議事進行につきましては、西山会長にお願いしたいと存じます。西山会長よろしくお願いいたします。

(西山会長)

本日は2名の委員が欠席です。委員の過半数の出席がございま

すので、この審議会は成立していることをご報告いたします。

それでは、まず前回の審議会での質問等が出ていましたので、事務局よりお答えいただきたいと思えます。

(松井室長)

では、前回の会議で出ました質問についてお答えします。まず、近藤委員から質問がありました事業番号39のファミリーサポートセンターの利用状況についてお答えします。平成22年度末の会員状況では、利用会員は630人、提供会員は217人、両方会員は38人、合計885人です。南部地区22.8%、東部地区20.3%、少ないところは中部1地区17.8%で極端に変化はありませんでした。活動状況では、東部地区が一番多く830件、南部地区が少なく384件でした。基本的に利用会員と提供会員は同じ地区です。経年変化では、平成20年度前後が多い状況でした。平成23年度は、前年を上回る見込です。

次に、金井委員から質問がありました子育てに関するホームページでの検索についてお答えします。「柏市子育て支援HP」があり、柏市に問い合わせたところ、「NPO法人エアロームかしわ」に委託料で運営を任せているとのこと。流山市の子ども家庭課も、このようなHPにしようと独自に調査したことがあるそうですが、情報が刻々と変わりとてもやりきれないとのことでした。しかし、流山市のHPのトップには、出産・育児・子育てがあり、子ども家庭課の子育てガイドブックを先頭に保育課・市民課・健康増進課・国保年金課・学校教育課など41項目の案内があり、このたび子育てサロンを追加し42項目の案内から検索しやすくなったと思えます。

最後に、山田委員から質問がありました事業番号20・21番安心安全課の「流山市防災会議」と「流山市国民保護協議会」に女性委員がいないことについてお答えします。本年9月の選任には、女性委員が4割になることを目指していますので推薦文にその旨掲載するよう口頭でお願いしました。以上です。

(西山会長)

ありがとうございます。それでは、まず建議についてですが、

建議をいつ出すのかということをお諮りしたいと思います。この審議会は8月29日までの任期がございます。その任期までに日程を決め、市長の都合も考慮した上で建議を提出するという段取りになると思います。今回事務局の方で皆さんからいただいた意見を箇条書きにしてまとめていただいていますので、その内容を精査することを今回と次回の会議にあてて、そして8月中に建議を出すという段取りで進める案がございますが、皆様方いかがですか。では、皆様からご賛同いただきましたので、今回と次回で建議の内容を詰めていきたいと思います。

それでは、事務局より、資料1についてと、近藤委員から提出していただいたレポートについて、説明をお願いします。

(松井室長)

資料1は、平成22年度から前回までの4回分の皆さんの意見をまとめたものです。同じような内容のものもありますが、今回と次回で整理していきたいと思います。それから、「女性センター」に関するニーズについては、近藤委員から今朝メールで届いたものです。以上です。

(西山会長)

では、ご自分の言った意見が反映されているか、抜けている部分はないか、全体の書き方なども含めてご自由に意見をおっしゃっていただきたいと思います。また、近藤委員からのレポートについては、皆様に目を通していただいて次回にしたいと思います。

(金井委員)

先程、松井室長にご回答いただいた子育て情報について、ホームページに42の項目があるとのことですが、市のホームページをわかっている人はパッと入っていただけるのですが、例えば一つの団体にしてもとても深いのでなかなか入れない。せつかく42項目あるのに、入っていくと惑わされてわかりにくい。入り口に子育て専用の入り口やリンクを貼るといのはいかがでしょうか。実際に、ある方に一つのページを教えてもお気に入りに入れるまでかなりの手作業で、またお気に入りに入れたとしても更新していないので古いままになっているのです。結局ホームページとり

リンクの関係が一般の人でわかっていない方も多いのです。

(西山会長)

それは、5ページの「情報発信について」の項目の上から3つ目についてですね。

(金井委員)

このやり方だと、例えば「子ども」で検索すると県のページに飛ぶ可能性もあります。ですから、これは流山の子育てという形で入っていけばすんなりたどりつけるのではないのでしょうか。これはやってみた人でないとわからないのです。

(西山会長)

では、これは実際にどのような形にするのが望ましいでしょうか。

(山田委員)

これは、乳児、幼児、少年などという用語でひっくるめた方がいいのではないのでしょうか。

(菅原委員)

項目で検索したらそれに関する出てくるというだけで、そういう括りはないのです。例えば母親が育児に悩んでいたら、「育児」と検索するとそれに関するものが出てくるのです。

(柏木委員)

子どもに予防接種をする場合は、「健康」から入らなければいけないのですよね。ある時は予防接種も行くけど、ある時は遊びに行く、次の日は習い事をしたい、子どもも預かってもらいたい、そのようなことが一括でわかるようなシステム作りをしていただきたい。

(西山会長)

わかりやすいホームページを作成するというのは、かなりスキルが必要です。メーカーなら、専門の人を当てて、いかにわかりやすいものを作るかということにしのぎを削っていると思いますが、地方公共団体では担当課の職員がその方のスキルを精一杯生かして作るという場合も多いと思いますが、いかがですか。

(染谷部長)

実は、平成 24 年の 10 月 1 日から流山市のホームページはリニューアルします。いろいろ評価はまちまちなのですが、今のホームページは初期画面がごちゃごちゃしていて見にくいという辛口のご評価もいただいています。そのようなこともあり、1 か月ほど前ですが業者も決定し、リニューアルすることとなりました。

(西山会長)

専門の業者をお願いすることが決まったのですね。

(染谷部長)

はい、決まりました。今までは、ほとんど秘書広報課の職員が自分たちで行っていたのですが、今度は、作成・管理は全て業者が行います。ただし、どのページを載せるかは担当部局が決めます。ですから、だいぶ見やすくなります。そして、それに合わせて女性のページを作るとか、初期画面をクリックすれば女性の施策全般にリンクできるような作り方をするか、それはこれからの話し合いで決まります。4 月から、各セクションと業者での話し合いに入っていく予定になっています。

(西山会長)

それは、要望を出すことは可能ですね。

(染谷部長)

もちろんです。

(西山会長)

HP がわかりにくいということは、使い手側に立っていないということです。項目ごとに分割して出てきても、人の暮らしはバラバラではないので。できれば子育て中の方がわかりやすいような、また、高齢者の方も入っていけるとか、生活に沿ってわかりやすく掲載されているようにリニューアルしてほしい、という文言を盛り込みたいと思いますが、いかがですか。

(金井委員)

たった 1 行でもいいので、入り方を矢印などで案内として載せたらどうでしょうか。今のホームページは悪くはないのですが、リンクの深さがわからないので途中で迷子になってしまうのです。

(染谷 委員)

今のホームページは硬く、ある程度限定されていると思います。

(染谷 部長)

実は、今のホームページは、課単位のみならず部単位でも載っています。それから、項目別でも随分載っています。しかし、それにお気づきにならないというくらい複雑になっているということに、我々は反省しなければなりません。見直す時期なのかもしれません。もっと見やすいようにしたいと思います。

(秋谷 委員)

そもそもどの課がどの部に所属しているのかがわかりません。この部は何を担当しているかとか、そこがわからないのです。

(西山 会長)

載っているのだけれども、わからないというのが問題なのですね。

(染谷 部長)

それが反省すべき点なのです。

(水代 次長)

データとしては、ほとんど網羅されていると思います。必ずどこかにあります。検索される方の目的によってどのようにグループ分けするか。例えば、ここにあるように子どもや幼児や育児として一緒にした中で、ママ友を作るサロンもあるか、といった時に、必ずどこかに載っているのですが、それぞれがばらばらですので、あとはサイトの管理者がいかにもその需要に応じてわかりやすくまとめるかということだと思います。そういう提案はしていきたいと思います。

(西山 会長)

役所ですから、各部課どこが所管しているということが重要なのですが、知りたい内容がどこの課が所管しているかどうかは市民の目から見るとあまり意味がないことですので、一旦役所の縦割りを外して、市民生活をトータルに考えた上で、生活に沿ってわかりやすくしていただくことが重要でしょう。業者を決めたということは、良いサービスを提供できるということですので、

ぜひ見やすくわかりやすくしていただきたいと思います。

(染谷委員)

子育てサロンなどは、市がやっているものだけではなくて、民生委員が地区でやっているものもあるので、載せていただきたいと思います。そのようなものも取り入れていただければ、幅広くより良いものになると思います。

(菅原委員)

広報にも子どもの児童センターなど載っていますが、やはり落ちているものもありますね。

(染谷部長)

業者に言わせると、職員が直接行うのはある程度までできるそうです。しかし、徹底的に違う点は、いらなくなったデータを除去するという作業だそうです。ですから、今流山市のホームページは、何十万何百万とデータが入っていますが、ほとんどのデータは使っていないのです。少ない人数でやっているものですから、除去することができないのです。それを一度リセットしますから、だいぶ軽くなると思います。

(染谷委員)

消す作業は職員の判断ですよ。なかなか業者では消しづらいでしょうから。

(染谷部長)

ですから、業者と市の職員が話し合いをして、その作業をやるのです。そして、どのようなものを作りたいか。それを10月までに完了させなければならないのです。

(西山会長)

1ページに「広報ながれやまの利用について」が出ています。また5ページにも広報についてやホームページについてなどが出てきます。この扱いはどうですか。

(染谷委員)

かなり重複しているものが多いですね。ですから、意見を集約したほうがいい。タイトルが多すぎて、内容が薄れてしまいます。5～7項目に集約して、制度的なものや施設的なものなどグルー

プに分けて取捨選択してまとめた方がいいと思います。

(西山会長)

四角で囲んだ項目をもう少し大括りして、そこに細かいものを付けていく形で、絞り込んでいったらどうかというご意見ですね。そういう意味では、広報ながれやまについては一つにした方がいいということですね。

(菅原委員)

そういう意味では、「場づくり」と「女性センター」は同じですね。

(西山会長)

では、「広報ながれやま」と「情報発信について」は同じところに入れる。それから、2ページの「交流の場づくり」に3ページの「女性センターについて」も入れて一つにしてはどうかというご意見です。

(染谷委員)

防災についても何か所か出てくるのですが、今、高齢者支援課でもそれについて取り組んでいると思いますが、それと高齢者のコミュニティもうまくまとまらないでしょうか。

(西山会長)

「交流の場づくり」という点では5ページに「施策推進のための交流の場について」というのが出てきます。この中身は地域コミュニティや地域防災の問題も組み込んでいるのですが、2ページの「交流の場づくり」と3ページの「女性センター」と5ページの「施策推進のための交流の場について」をうまくまとめられそうですね。いかがですか。

(染谷委員)

分離して、あちらこちらにくっついているものもあるようです。ですから、今の四角で囲っている部分に1、2と連番を打っていく。

(山田委員)

つまり、総論を作って各論を作るということですね。

(染谷委員)

そうです。できるだけシンプルに。

(西山会長)

今のご意見をまとめますと、大括りしたものを例えば4つ5つ出して、それに対して中項目に当たるものを出して、その下に具体的なものを入れていく。

(染谷委員)

これを読んでいきますと、いろいろ網羅はされていますが、重複を避けてうまく編集できればいいですね。

(西山会長)

3 ページの「地域と防災について」は括れそうですね。

(山田委員)

防災については、詳しくやった方がいいと思います。なぜなら、現在県から県民への要望でも防災関係が一番なのです。先般の会議で、20番の「各審議会等における男女の委員割合が4割を下回らないようにする」の安心安全課の23年度の目標、事業予定が白紙だったので、いかがなものかと思っていたのですが。

(松井室長)

このことについては、次はきちんと書くように伝えました。

(西山会長)

「地域と防災について」のところに「審議会等への女性の登用率について」これが盛り込まれていないのですね。防災会議に女性の委員がないことについて、女性が入らなければいけないけれど充て職なのでそこにどうしても女性が入りにくいという現状があるなど時間をかけて相当やりとりをしたと思うので、今回の建議の中でも、女性の参画を強力に推進してほしいというのは重要な柱になると思います。それと同時にこの地域と防災は、東日本大震災を受けて後の審議会ですので、やはり災害について皆さん明日は我が身ということもあり、かなり活発に議論したところでは。「地域と防災について」の中に、防災会議の審議会について入れ込んでまとめるようにするのがいいのかもしれない。そうすると、審議会の女性委員の参画を確保したいということも残したい

ので、女性の参画の部分は両方とも出てくるかもしれませんが、防災会議に女性委員を入れることも何らかの形で確保したいということと、地域コミュニティを作っていきたいということ、ここは大事な項目になるのかなと思います。

(染谷委員)

女性の委員は委員で、集めるということですか。

(西山会長)

審議会の女性の委員の割合を増やすということ、その項目は必ず入れるのですが、特に審議会の中でも防災会議については話がすごく出ているので地域と防災のところに入れるということ。男女共同参画の視点で地域の防災をどう考えていくのかなど含めてこれは地域づくりという項目を立てて中身をもう少し膨らませるという形で入れるというのはいかがでしょうか。それから、2ページにある人材の発掘や女性リーダーの問題についても、皆様方から相当ご意見が出されていましたが、これも両方一緒にまとまりそうですね。特にここの中では、女性のマネジメント力を強化するような内容の講座の実施についても金井委員からご意見が出されたと思います。

(金井委員)

これは、特に委員さんたちの集まりの中にもあるのですが、この目標の40%というのは、実感としてとても大事な数字だと思います。なぜかという、例えば男性5人で女性が2人だと、男性はきちんと女性の意見を聞くのですが、男性5人で女性1人の場合はいくら意見を言っても男性の2人は鼻でフツと笑うというのが現実であります。せめて40%になれば、女性のリーダーが育っていきますね。

(西山会長)

1ページの「男女共同参画推進のための意識改革について」と「審議会の女性の登用」と「人材の発掘」と「女性がリーダーとして活躍してもらうことについて」、全て女性の能力発揮ということで括れそうだと思います。結局、女性自身がきちんと意識改革することが必要という意味合いで言えば、全て女性の能力発揮を

どう支援していくのか、そこのところで全部まとめようと思いますが、いかがでしょうか。

（菅原委員）

内容的には、そうですね。

（西山会長）

また、参画しにくい条件を緩和するのに子育て中のママたちが、審議会に出やすいような環境整備をするとか、必要とされる講座を実施していくとか、そういったことだと思います。1 ページ目の二つは「女性の能力発揮」というので全部括れそうですね。その次は、交流の場づくりが大きな項目として残りそうですね。それから、どこに入るのか考えなければいけないのは、3 ページの「子育て支援について」、「暴力の根絶」、「生涯を通じた健康支援」ですね。それから、6 ページの「計画を着実に進める推進体制の強化について」は、これはこのまま残す必要があるでしょう。「政策・施策に対する要望等」は、上にある「計画を着実に進める推進体制の強化について」に入れられそうですね。そうすると、「子育て支援」と「暴力の根絶」と「健康支援」はどうでしょうか。それ以外は、大きくまとめられそうですね。

（柏木委員）

4 ページの「女性に対する暴力の根絶について」なのですが、小・中・高世代のデートDVの啓発が必要だと思います。その理由は、23年度の千葉県のデートDVに関する意識調査の結果なのですが、その中でも66.2%の人が学校でデートDVの教育をすることが必要だと答えているからです。現在活動されている方は、川下で傷ついている女性を助けても切りがない、と言います。ですから、DVの根が育つ前の若い方達に啓発をする必要があるのではないかと思います。

（西山会長）

なるほど。若い方たちにデートDVの啓発が必要だということですね。ですから、それを項目としてきちんと入れ込んで、これは特立して残して、DVはDVとして重要な要素なので、新たにこれを付け加えてほしいというご意見ですが、いかがですか。

(金井委員)

高齢の方が高齢の方に面倒を見てもらう状態の場合に、やはりDVのような言動があるようです。ですから、「生涯を通じた健康支援について」にもDVのことは絡んでくるのではないかなと思います。

(柏木委員)

子どもの前でDVをすることも、幼い子供に虐待という形で現れるのです。

(染谷委員)

DVだけでなく、高齢者の虐待も増えています。それは高齢者虐待なのですよね。小中学生に対するDVの教育も必要なので、それも入れていただいて、それから、PRの中で、小中学生にポスターや標語を作ってもらうなどしてもいいのではないかなと思います。そうすると興味を持ってくれるのではないのでしょうか。

(西山会長)

「あらゆる暴力の根絶」という大きな項目で、「女性に対する暴力の根絶について」というのが一つあって、もう一つは高齢者や児童虐待も含めて、人権侵害の虐待の問題をきちんと入れ込むということ。高齢者の介護の問題や様々な問題での虐待を防止するような施策が必要だということですね。そうすると、「生涯を通じた健康支援について」が一緒に入れ込むということですね。夫婦間のDVが子どもに影響するということがありますからね。他にございますか。

(染谷委員)

それから、PR方法ですが、市民まつりはかなり人が集まると思うので、ブースを設けるほどでもないでしょうが何かコーナーを設けたらどうでしょうか。

(西山会長)

それは情報発信ですね。「情報発信について」の中に、ホームページもあるし紙媒体もあるが、きちんと男女共同参画の視点を持ってイベントなどで楽しさをアピールするように市民まつりに専用のブースを設けるなどしたらどうかということですね。

(染谷委員)

ティッシュを配るとか。

(菅原委員)

5 ページの「施策推進」の所にイベントは入っています。

(西山会長)

新たに市の祭りに参画していくということですね。これは「計画を着実に進める推進体制の強化について」ではなくて、むしろ「情報発信について」ですね。では、今、出た意見を事務局がホワイトボードに書いてくださいましたので見てみましょう。

(水代次長)

5 つにカテゴリー分けしました。そして、四角で囲んだ項目を順番に①から⑰まで番号を振りました。①番「男女共同参画推進のための意識改革について」は、女性のリーダー育成、③番「審議会等への女性の登用率について」、④番の「人材の発掘」、⑤番の「女性リーダーの活躍」これが一つのカテゴリーになるかなと思います。

そして、⑥番「交流の場」、⑦番「女性センター」、⑧番「子育て支援」は、女性の交流の場のような気がするのですが、これも一つにしました。

それから⑨番「地域づくり」、⑩番「地域と防災」、⑪番「地域活動」でまた一つの塊ができると思います。

また、⑫番「女性に対する暴力」、⑬番「生涯を通じた健康支援」は、「プランの推進について」という項目に入れ、8番「子育て支援」も入れて整理しました。⑯番「計画を着実に進める推進体制」も当然入れ、⑦番「女性センター」も絡んでくるのではないかと。

先程の市民まつりも「情報発信」に絡んでくるのでしょうか。

これをたたき台でご議論していただいた方が早いでしょう。

(西山会長)

5 つの大きな項目に分かれているのですが、皆さんいかがですか。順番については、4番目にある「女性人材の育成」は1番目で、2番が「地域づくり」、3番が「交流の場」、4番が「情報の発信」、5番が「計画の推進」ではないでしょうか。この審議会で

議論したボリュームだったり、重要度やおさまりから言うと。

(染谷委員)

グループ化されているわけですから、それにふさわしく多少は文言を変えてもいいのではないのでしょうか。

(水代課長)

先程の総論各論ではありませんが、あとは文言を整理する。かと言ってこれだけあると建議としては文章が細かいと思います。もう少し大雑把に整理したほうがいいでしょう。

(大村副会長)

2と3の区分けがどうかと思います。2と3を統合してもいいのではないのでしょうか。個別の項目を見て行くと、⑩の「地域活動」の中に「女性の能力が活かされているのか」という項目がありますが、それは「人材」の方に移してもいいと思いますし、それ以外のもの「システム作り」とか「自治会」とかということなので、「交流の場づくり」として内容としてはまとめられるのではないかなと思います。

(水代課長)

それは、議論していただいて4つにしてもいいし、細分化してもいいと思います。ここには⑦「女性センター」という大きな目標のものもあります。

(西山会長)

それについては、レポートを書いてくださった方もいらっしゃるので、その問題は「地域との交流」とは少し違いますね。

(大村副会長)

「地域づくり」が大きな括りで、その中に「交流の場づくり」というのを小項目で入れるのはどうでしょうか。

(西山会長)

そうですね。

(柏木委員)

⑧「子育て」なのですが、「女性人材の育成」の所に保育ボランティア事業とかそういうのが入ってくるとは思います。

(西山会長)

子育てについては、審議会委員等参画への促進のための一時保育の話ですね。もう一つは待機児童の問題ですね。働きたい人がどんどん増えている。それに対して待機児童をどうするという問題があります。女性人材、能力発揮という意味であれば、入れてもおかしくはないですが。

(菅原委員)

それだと、働く女性が対象になってしまうので、違うと思います。

(西山会長)

そうですね。

(水代次長)

では、⑧「子育て」はどこに入りますか。

(西山会長)

プランに既に載せている内容をより強力に進めてほしいという意味では5番「計画の推進」だと思うのですが、5番の中身は、いわゆる計画を全庁的に進めていくとか、庁内推進体制をきちんとしていくとか、評価をきちんとするとか計画の推進そのものになっています。それら内容と共に、計画に載せられていることをきちんとやってほしいという意味でDVの問題や子育ての問題の一緒に全部5番に入れています。DVの問題等は計画に載せていますが、意見に出ているデートDVについては計画に載せていましたか。⑫DVに今発言のあるようなデートDVの問題、若い世代への啓発などさらに力を入れてほしいというのは現計画ではどうですか。

(松井室長)

特にデートDVというようにはしていませんが、DVとして書いてあります。

(西山会長)

それでは、DVの中身にデートDVの啓発も含めてということでもいいですね。

(松井室長)

はい。

(西山会長)

では、5番に入れても大丈夫ですね。

(水代次長)

そのようなものは文言で謳っていいと思います。

(西山会長)

確かに、5項目ぐらいに大きくまとめた方が見やすいですね。特に建議して申し上げたいということですので、ポイントがわかりやすいのが重要です。皆さん、いかがですか。

(山田委員)

質問してもいいですか。「地域づくり」の中に⑩地域と防災と書いてありますが、危機管理も含めての防災ですね。これは文言として入れたほうがいいかもしれません。

(西山会長)

特に危機管理としては、入っていませんね。入れた方がいいですか。

(山田委員)

将来のために入れた方がいいですね。

(菅原委員)

女性の立場から見た今の防災の状況に、ぜひ女性をとということで発信したいのだと思います。

(山田委員)

ですから、ここに入れてもいいのではないですか。

(菅原委員)

そこまでは、と思いますが。

(山田委員)

今は必要ないですか。

(菅原委員)

いいえ、必要はありますが、男女共同参画の提言書の中に入るのはいかがでしょうか。

(山田委員)

結局、防災は危機管理の問題です。言葉は大きいのですが。1行でも入れておけば。

(西山会長)

⑪「地域と防災」について今書かれているものを見ますと、学区区を見直していかに顔見知りを増やすか。家族の大事さの見直し。地域の力は大きいので子供会や井戸端会議のできる場所を若い方々が欲している。そこで異年齢の方々が出会うような、学区区地域で顔見知りが増えるような催しやイベントを考える必要がある、と書かれています。

もう一つは、東日本大震災の教訓があつて、地域の団結と交流が必要で、さらにそうしたことを啓発することが重要なのだ、ということが出されています。地域の防災について、防災面でも減災面でも災害後の避難所の運営の問題も、復興についてもその中に女性の視点が入ることが重要というのが、議論の中では大きく出されていきました。どうしてもそこが防災のところ欠かせない内容だと思います。そのあたりが現状の書き方では少し薄いかもしれませんね。

(山田委員)

ですから、入れてもいいのではないかという提案です。

(水代課長)

建議の大きな項目としては、1番「女性人材の育成について」、2番「地域活動における女性の参画について」などになると思いますが。

(西山会長)

「地域活動における女性の参画について」ですが、現在、地域活動については女性の問題だけでなく、むしろ、どう男性を地域活動に巻き込むかも問題なのです。「女性の参画」という点から問題点を上げるならば、自治会や町会の長になるなど意思決定をする場に女性がいないという問題があります。意思決定の場に加わっていく女性をどのぐらい増やしていくか。男性については多くの男性が地域に目を向けて男女が共にいかに安心安全な地域にし

ていくのか、地域活動する人をどう増やしていくか、というのが重要なポイントでもあるわけです。ですから、大きなタイトルを「地域活動における女性の参画」とすると駄目なのです。むしろ地域づくりについてなのです。男女共に作る地域作り。

(水代次長)

では、これはとりあえず「地域づくり」にします。

(西山会長)

または、「男女ともにつくる地域づくり」でもいいですね。

(野崎委員)

男性も、仕事の間ではなく地域の場に入っていくには、少し柔らかくということですね。

(西山会長)

街を作っていく主体的に、審議会にも参画するけれど町会や自治会、団体活動など様々なところに男女が共に意思決定して作り上げて行くということですね。

(水代次長)

では、4番は「情報の発信について」でよろしいですか。

(西山会長)

いいですね。

(水代次長)

では、5番は「計画の推進について」でよろしいですか。このように決まれば、後は整理すればいいですね。

(西山会長)

皆さんどうですか。このような形になりましたが。

(菅原委員)

賛成です。

(柏木委員)

疑問があるので、お聞きします。「審議会等への女性の登用率について」の中に「流山市国民保護協議会」の委員に女性がひとりもない、とありますが、私が調べたところこれは武力攻撃事態等において武力攻撃から国民の生命や財産を保護するという協議会なのですが。

(西山会長)

あえてこの審議会の名称を上げなくても、女性の委員が必要だというようなことを強調したほうがいいのではないか、ということですね。

(染谷部長)

女性が全く参加していない審議会をつぶしていくというのが目的なのですよね。では、そのようにお書きになった方がいいと思います。全ての審議会において、少なくとも女性を1名入れてくださいと書けば、全てを網羅できますから。

(西山会長)

そうですね。

(山田委員)

松井室長の話だと、9月に改選するので女性を入れるよう安心安全課に要望したと言っていました。

(染谷部長)

改選の前に建議をして、それを市長が受け取り、市長が各セッションに指示をするのです。それはいつになるかわかりません。

(西山会長)

部長からもご提案がありました。審議会名を特立てしないで、むしろ女性ゼロの審議会をなくしていくという書きぶりにした方がよいのではないのでしょうかということですが。

(金井委員)

東日本大震災の時に、女性が防災に必要だとわかりましたよね。ですから、例として「防災会議」と載せたらどうでしょうか。

(西山会長)

この審議会でも、街づくりにも防災にも女性の視点が必要なのだと強く皆さんは議論されましたので、そこは強調して書きたいところです。例えばとして出すとか。

(大村副会長)

今、話されているのは③番のことですね。特に防災というのであれば、⑩番でもいいのではないのでしょうか。

(西山会長)

そうですね。先程出ているように、③「審議会への女性の登用」と⑩「地域と防災」が分かれていますのですが、本来ならこの防災の所に書く内容かなと思います。

(大村副会長)

特に名前を上げてというのであれば、⑩「地域と防災」の所でしっかりと名前を上げて、書いた方がいいと思います。③の全ての審議会では書かなくてもいいのでは。

(染谷部長)

それでは弱いのではないですか。もしかしたら防災会議以外にも女性の審議会委員がゼロの所もあるとすれば、防災会議だけを塗りつぶせばいいという議論になりませんか。

(大村副会長)

③番の所では、全ての審議会について書くのです。

(染谷部長)

では、再掲になるのですね。

(西山会長)

再掲というよりは、両方に書くのです。

(大村副会長)

全く同じものを書くではありません。

(染谷部長)

わかりました。

(西山会長)

皆さん、いかがですか。

(水代課長)

よろしければ、事務局で整理をしてお配りし、またご意見をいただくということによろしいでしょうか。

(西山会長)

今度は、少し整理していただいたものを郵送していただき、それを見て次の回で再度揉んで、最終建議としてまとめたいと思います。皆様いかがですか。何かございませんか。

(平島委員)

5 ページの「施策推進のための交流の場について」です。震災後、結婚願望を持つ若い男女が増えたという話をよく聞きます。ぜひ市に交流の場を作っていただきたい。2 行ほど盛り込んでいただければ。少子化対策にもなるのではないかなと思います。ここに合いませんか。確か、どこかの市でやっていましたね。市が仲立ちをするという。昔と違って、婚期の男女が出会う場がない。紹介する場がない。

(菅原委員)

それでしたら、イベントですね。

(西山会長)

例えば宇都宮市は、若い人を集めて街コンをしたそうですが。商店の活性化も踏まえて婚活ですね。地方公共団体でもやっているところもあると思いますが、

(平島委員)

それも流山市もやっていただくのはどうでしょう。

(秋谷委員)

商工会議所でやったことはあります。どのような成果があったのかはわかりませんが。そういう場は設けました。

(西山会長)

今書いてあるのは、あらゆる年代の人が交流を図るというのが重要なので、と書いてあるのですが、全く違いますね。

(平島委員)

もし、どこかに入れられるなら入れていただきたいという希望です。

(金井委員)

婚活となると少し違うと思いますが。

(平島委員)

とにかくチャンスを与えてあげたい。

(大村副会長)

今、調べましたら他の県では結構やっていますね。バーベキュー

ーパーティなど。県の事業としてやっています。

(染谷委員)

5 ページ「施策推進のための交流の場について」の2つ目。「多くの人が」という所を「多くの人（特に若い男女）が」としたらどうでしょうか。

(西山会長)

ここに入れると女性関連施設が必要なのは、若い男女の出会いの場がないので、と読めてしまいますね。

(菅原委員)

流山市は、若い男女が増えていますが、やはり出会いの場はないのですね。地方には出会いの場がないのだらうと思いますが。

(大村副会長)

今、都市部でも若い世代が内向きになってしまって、出て行けばたくさんあるのに敢えて行かないという傾向にあるようです。

(菅原委員)

市民まつりを見ていまして、参加しているのは中年層か子連れの方が多いですね。

(西山会長)

若い人は街コンのような何か心ときめくようなことがないとなかなか参加しないのでしょうか。公でやっているところでは、若い方にその土地に定着してほしいという理由もあると思います。交流の場については少し考える必要がありますね。

では、残り時間が少なくなりましたので、事務局に、配布していただいた資料の説明をしていただいてもよろしいですか。

(松井室長)

ー職員用DV被害者窓口対応マニュアル作成について報告ー

それから、先程の出ました流山市の女性委員のいない審議会は、7つです。以上です。

(西山会長)

ありがとうございました。何かご質問はありますか。

(染谷委員)

このDV被害者窓口対応マニュアルは、一般市民の目の届く場

所にも置くのですか。

(松井室長)

これは職員向けとなっています。

(染谷委員)

民生委員活動の心構えとして、いただきたいのですが。

(松井室長)

必要であるならばお分けします。

(菅原委員)

随分早くできあがったように思います。

(松井室長)

研究会を4回、また各班に分かれて話し合ったり、メールで確認し合ったりかなり時間はかかりました。この研究会に出た職員については、DVについて勉強していますので、課内での研修はその職員が行うようにしています。

それから、平成23年度男女共同参画事務年間実績及び予定を配りましたのでご覧になってください。

(西山会長)

では、次回は6月頃を予定しております。今日出ました意見を事務局に整理していただいた後郵送していただき、皆様にご覧になっていただき、また次回に審議をしたいと思います。よろしくお願ひします。本日は、どうもありがとうございました。